13
1503

通俗三国志

下

享和三癸亥春

遠
1509

1503

帝国図書館蔵

萩唐萩声述

和三変の神事なり

[illegible]紀州小白唐と日本の[illegible]千空浦中

而降里なりて三の嶽あり七ツの石を蒙濤蒙濤

酒宮と号して三宮なり[illegible]と二十里成角ゞて東南小の二方ふ

筋向ひ合せ[illegible]中あり[illegible]と云

て宮の[illegible]の[illegible]の[illegible]の橋[illegible]の後[illegible]て[illegible]の加香氣[illegible]

紅十代し女人宮[illegible]の婦人[illegible]腸すんと[illegible]附八盃

春小[illegible]げ[illegible]蘭風をまち[illegible]て新[illegible]その風を[illegible]

[illegible]

五童の塔と[illegible]

山とおひしとうの[illegible]悲[illegible]圓の地なり[illegible]女護の[illegible]

此[illegible]事[illegible]と云云

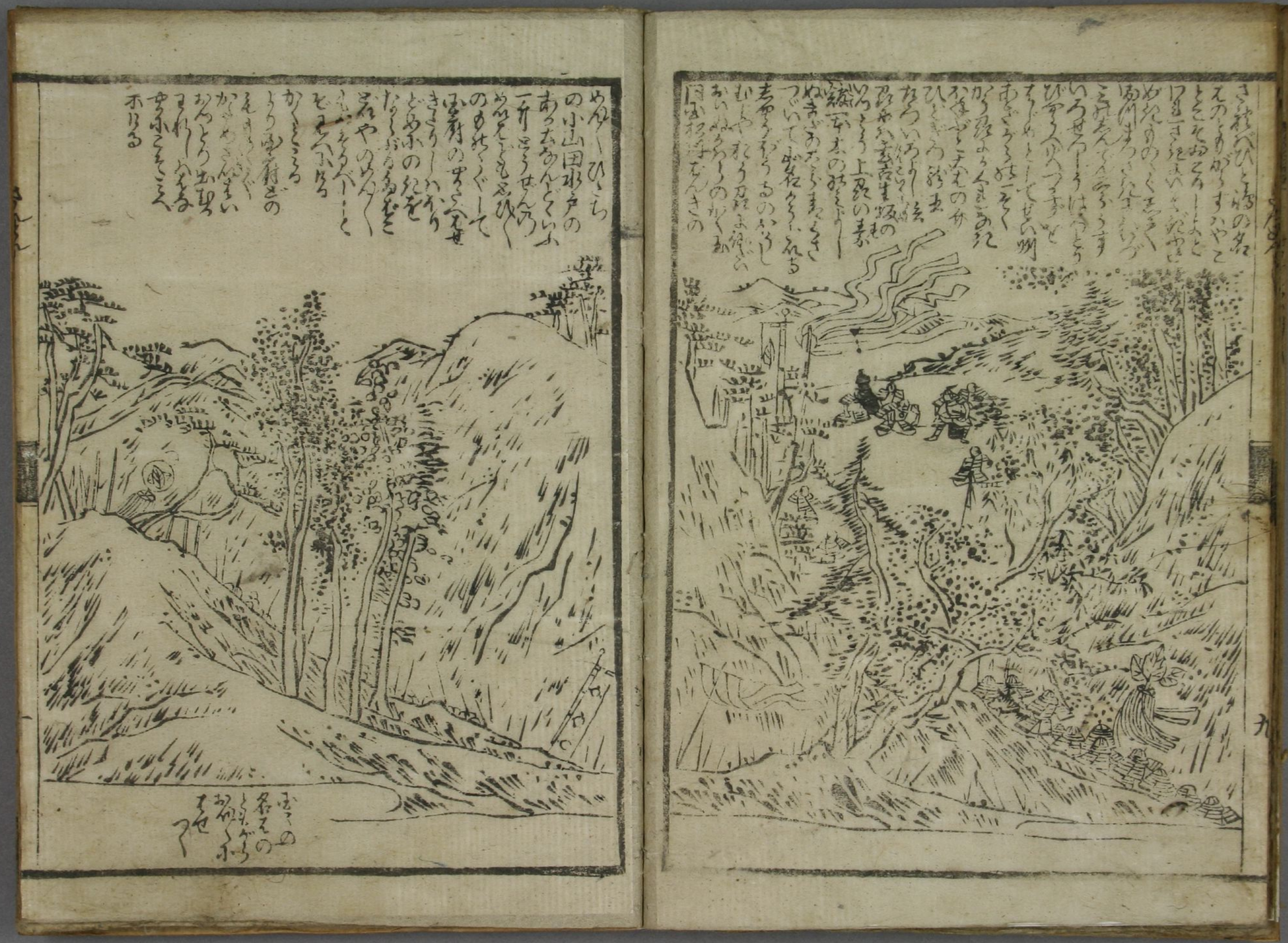
さるほどにくれの大王
はらし二十一人の
ちゐさきやせはこやうに
よろこびあへしかあい給
なく御びやうけんのお
りしもにかはりしく
御ぞんじさんおりしに
よりはかそでつくの
つまきんなぐ御子と
りおげつくて御目ぶ
玉のやうなる御子を
しそてでありけるつれ
さるぶうは文京さぶ
らの内侍おりくぶ
れつぶ川上の侍従
あんどこれをうえ大
きにおどろききをもむ
りしよりこの事のあ
大王とこれ下まあ
某のふだんにいるる
まんきまいそりした
かしかかにかんさ大王て
んどかかんに紙さう
またせらるるしちて

これハ
いろうえんだやし
くちぐおらやく
くちやちやべりあい
ちやまくの世話きき
なすもことらうかり

さんさんし

酒呑童子

大王煙草公



ひけどのの
しろ

さて城中ゆかいこと
をぞんじゆゑこの
酒とゆさぐこと
ようゆへいせをさ
ろうときくおぐろ
きさらぐかうゆも
これをふせぐべき
ろうきくうのびゆう
ぎくうりぐをうにき
ゆくさる老松業哉
ゆくこふのんどいふ
んれゆれゆるゆ酒た
いそだ大ゆの門を
うこせよせくるて
きふふうくをとせ
ゆふゆのこせんと
ゆぐてとりふふ
すゆゆゆゆこせぐ
酒ぢうくようせくる
なをこの大ぐんをた

とうゆうそつくう
げう城門のさけせい
あうりゆそゆへの
おくゆをゆうまふ
ゆうゆうそをいうせい
とうをたこいうれかせ
おくれゆでんそうと
よういかゆうゆうに
つうをたをこうへてた
ゆぐんふをひきようせかい
あでつうようて酒を
をこをせれかうこと
せいうくうくゆのぬ
れてひきうくなうう
こううゆうゆうくうん
ゆもおうゆゆうてひた
こへうてそゆけうう
ゆう

中

長喜画